

【学年】 5 年	【教科・単元など】 社会「自動車工場をたずねて」（全 15 時間）
【実践内容】 ●目標 ◎これからの自動車にはどのようなことが求められているか考えることができる ◎自動車会社では、「環境にやさしい車」「安全な車」「人にやさしい車」を生産するために、さまざまな工夫や研究に取り組んでいることに気づくことができる。 ●学習の流れ 自動車工場をたずねて⑮ (1) 自動車づくりにはげむ人々⑦・・・自動車の作られるまで様子や願い (2) 自動車がとどくまで③・・・自動車がとどけられるまで様子や願い (3) これからの自動車づくり⑤（ゴール） 近未来の車を企画し、発表する。 ① ・近未来に必要な車を予想や調査をし、発表する。 →空を飛ぶなど目標にそぐわないものにならないようにするため ・発表から、<u>環境・安全・人にやさしい</u>のポイントにしぼる。 ・自分の企画して考えたいポイントを決め、グループを作る。（環 →全てを考えると時間的にも厳しいことや内容が広がりすぎると考えた ② ・個人で自分のポイントにそって、車を企画する。 ・グループ内でお互いの企画を紹介し合い、グループで 1 つの車を企画する。 ③ （2 時間）・グループ内で話し合ったり、資料をもとに調べたりして企画をまとめていく →資料は自動車販売店のパンフレットを用意した。（環境や安全など項目ごとに書かれているものが多い） →構想段階では、ホワイトボードを活用した。 ④ ・全員の前で発表し合う。 ・お互いの発表を聞いて、良いと思ったところや参考になったところを発表する。 →現実的には難しいものもあったが、良いところ等に目を向けさせ、企画してよかったと思えたり、工夫について知ることができたりするようにした。 知的好奇心について 「自分たちで近未来の車を企画する」ということそのものが、知的好奇心を喚起するものだと考えた。その中でクラスごとに自動車会社名を考えたり（5－3 は Max Power）、本物の自動車会社のパンフレットも活用したりした。考える車がとっぴょうしもないものにならないよう視点をしぼって行うことで、目標にせまる形で学習を展開した。 ひびき合いについて この学習では、個人で企画するのは難しい子もいるということで、グループで行った。ただ、自分の考えも生かされるよう一度は個人企画をし、グループの話し合いで生かしていけるようにした。また、最後に全体に伝える場を設けた。	
【子どもの様子・反省】 ○他のクラスでも行っていたこともあり、子どもたちは意欲的に活動した。自分たちの考えだけでなく、実際のパンフレットを見ながら、良いものは取り入れていていた。 ●ポイントを決めて企画したが、デザインや値段にこだわりをもち、ポイントからずれていくグループがあった。	